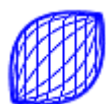


DA 出力のキャリブレーション法

2003.9.24

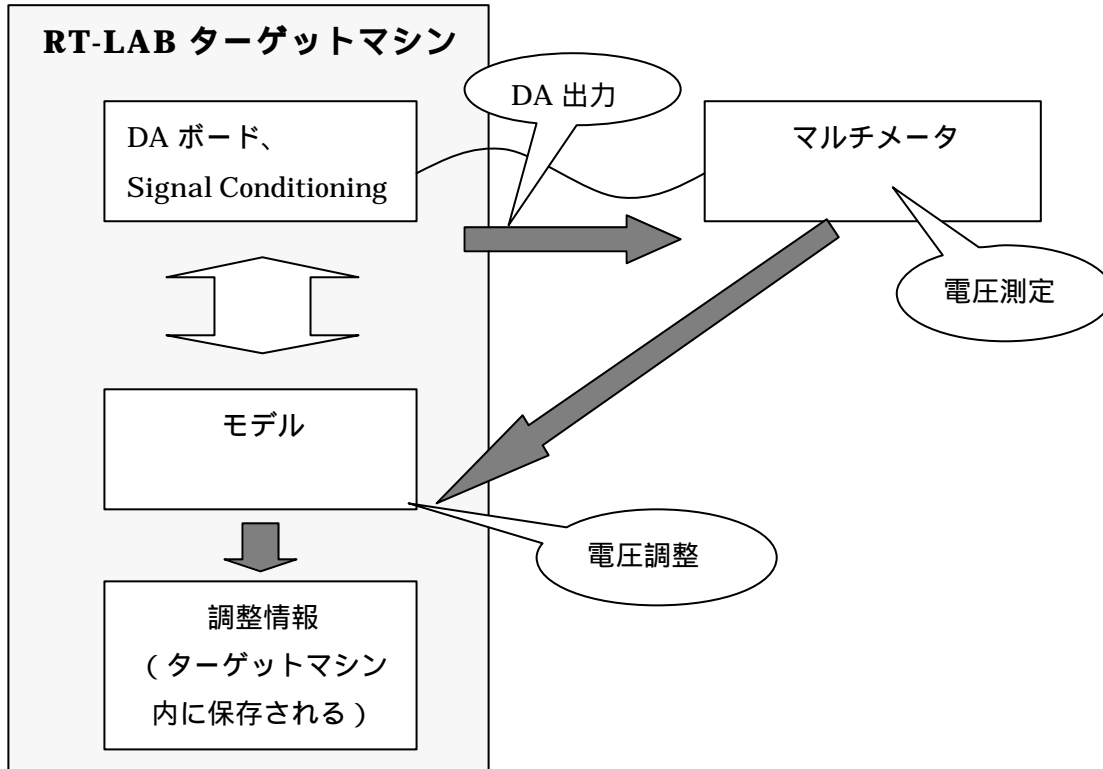
1	概要	2
2	動作環境	2
3	Parameter Manager (概要)	3
4	Parameter Manager (データ記録)	4
5	Parameter Manager (データ読み込み)	5



1 概要

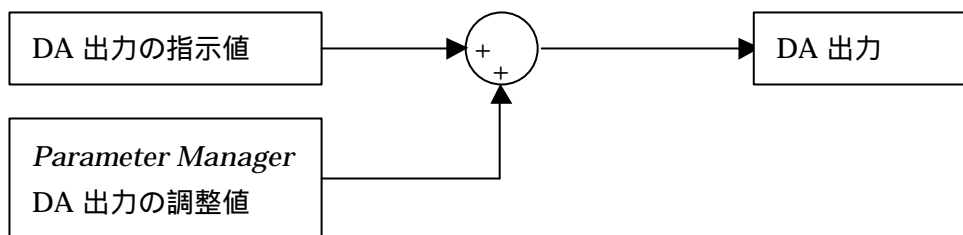
このドキュメントでは、DA ボード出力のキャリブレーション方法をご説明します。

DA ボード、および Signal Conditioning ボードの個体差を吸収するには、実際に DA 出力をしてみて、それをデジタルメータで観測しながら調整を行う必要があります。



調整を行うには、RT-LAB の Parameter Manager ブロックを使用します。

Parameter Manager は、モデル実行中に調整値の保存、および読み出しを行う事ができます。

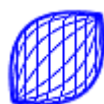


2 動作環境

このドキュメントは以下の環境を想定しています。

RT-LAB 6.2、6.2.1

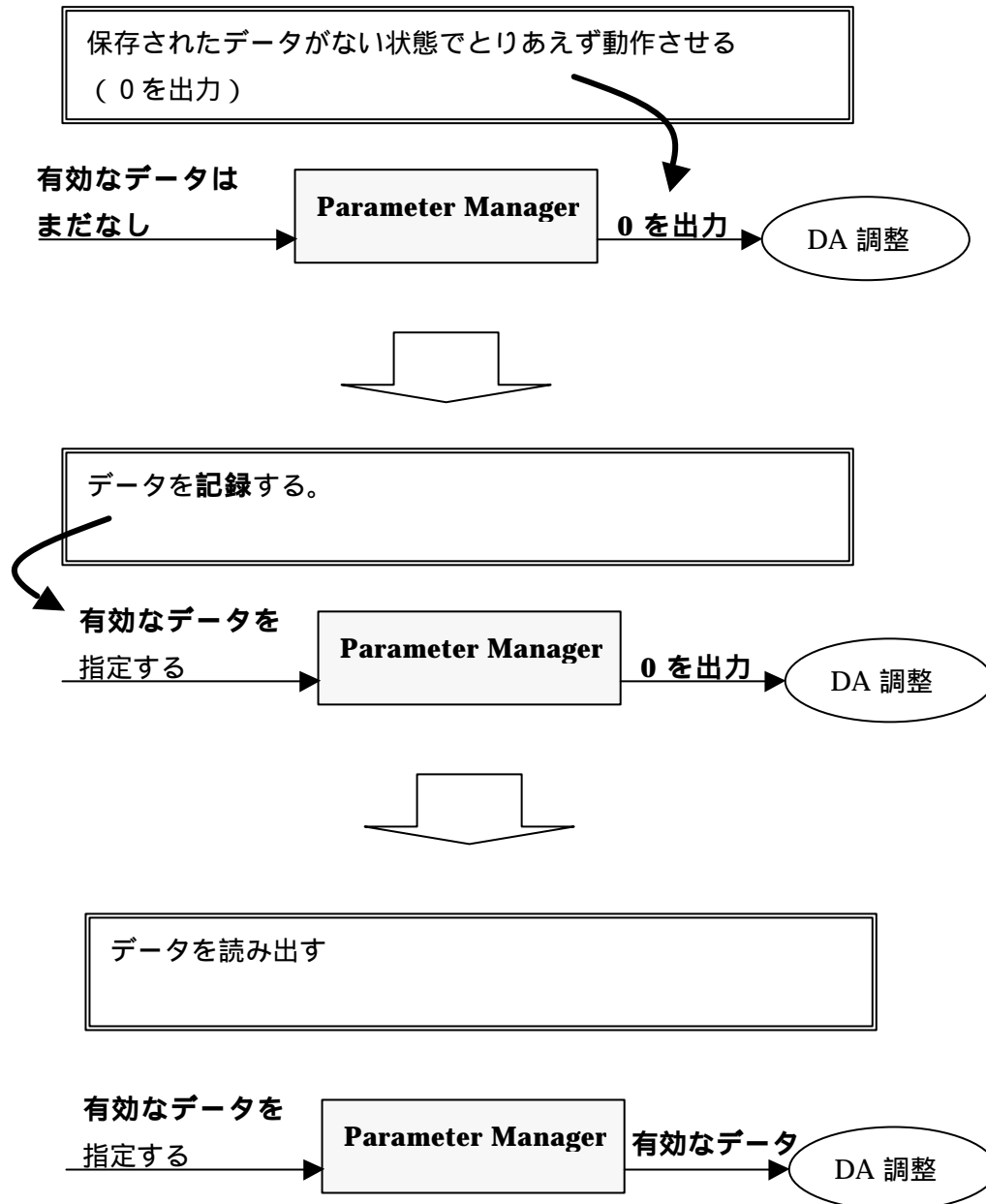
MATLAB R11、R12、R12.1、R13



Microlink Systems

3 Parameter Manager (概要)

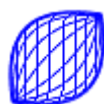
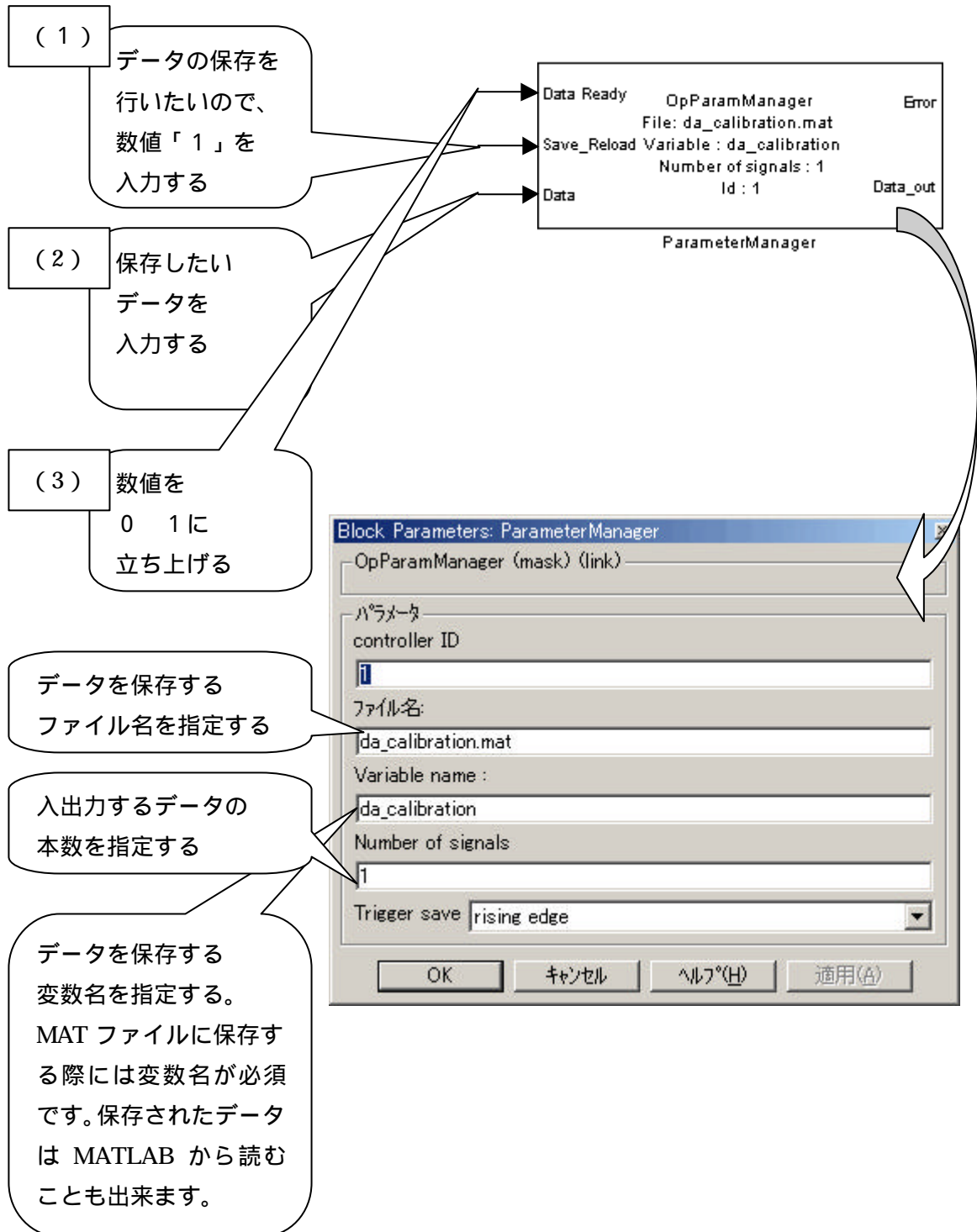
Parameter Manager は以下の手順で使用します。



有効なデータを指定するのは、調整時のみです。いったん調整がすんでしまえば、次から使用するときには調整後の値をそのまま使用することができます。

4 Parameter Manager (データ記録)

データの保存は、以下の3ステップで行います。



5 Parameter Manager (データ読み込み)

データの読み込みは、以下の2ステップで行います。

